

令和 7 年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

4 月 1 7 日の「全国学力・学習状況調査」では、全国の小学 6 年生と中学 3 年生を対象に、児童・生徒の学校や家庭での学習状況（学習意欲、学習方法、生活の諸側面など）に関する調査と、小学生は「国語」「算数」「理科」、についての学力調査が行われました。

今回の調査結果は、本校児童の学力の限られた一部分ではありますが、結果を基に本校の現状を分析してまとめましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせいたします。



各教科とも全国・兵庫県の平均とほぼ同程度の正答率でした。また、それぞれの教科の調査結果から、本校児童の学力について、以下のような特徴が見られました。

【国語】

☆概ね力がついていること

- 目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関連づけたりして、伝え合う内容を検討すること。
- 情報と情報との関連づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
- 話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

☆これから力をつけていきたいこと

- △学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
- ⇒当該学年の前の学年に配当されている漢字を書く機会を増やし、当該学年に配当されている漢字を含めて、文や文章の中で使うことで漢字の定着を図ります。
- △目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけ、自分の考えを書くこと。
- ⇒資料を結びつけたり、文章と図表などを結びつけたりしながら情報を明確にして読む指導を行い、書き表し方の工夫や条件に合わせて書くなどの機会を増やして学力の向上に努めます。

【算数】

☆概ね力がついていること

- 平行四辺形や台形など図形の意味や性質について理解すること。
- 基本的な数と計算の問題を解くこと。

☆これから力をつけていきたいこと

- △「○%増量」（割合）の意味を解釈し、何倍になっているかを表すこと。
- ⇒「○%増量」（割合）が、増量前の量の何倍になっているのかを考え、説明する活動の機会を設け、図と式や言葉を用いて説明し、数量の関係を捉えることができるようにします。
- △分数について、数直線上で、1 の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること。
- ⇒等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いる機会を設け、分数についての知識・技能の定着を図ります。

【理科】

☆概ね力がついていること

- 【結果】や【問題に対する まとめ】を予想して、表現すること。
- 電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現すること。



☆これから力をつけていきたいこと

△水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現すること。

⇒表やグラフなどに整理する活動を設け、結果を比較したり、複数の結果から多面的に考えたりして、自分の考えを表現できるようにします。

△身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引きつけられるものの知識を身につけること。

⇒鉄、アルミニウム、ガラス、木など、それぞれの内容で習得した知識を物ごとに整理し、まとめるなどして、物質の性質について理解を深めるようにします。

各教科ともに、学習内容の習得について概ね良好でした。国語科では、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけること、算数科では、割合の意味を解釈し、何倍になっているかを表すこと、理科では、結果を基に結論を導いた理由を表現することに課題が見られました。本校では、「主体的・対話的な学習活動」を目指して、各教科で話し合い活動や ICT 機器の活用を進めています。今回の結果では、国語科「情報の扱い方に関する事項」の領域で取組の成果が見られましたが、一方で、「記述式の問題」や「解答に対しての説明を必要とする問題」などについて課題が明らかになりました。

今後の学習においては、引き続き、話し合い活動を授業に取り入れながら、目的や意図に応じて表現（書く・伝える）する活動に取り組んでいきます。

生活・学習の状況

生活実態調査は、「児童質問紙」として全 71 項目の質問によって行われ、全ての項目の回答結果について考察しました。その中で特徴的な項目は以下のとおりです。

- ・「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」では、肯定的な回答が多く、ほとんどの児童が規則正しい生活をしていました。
- ・「人の役に立つ人間になりたい」「地域のために何かしたい」と考える児童が多く、地域や社会に**対**してよりよくしていこうとする態度が見られます。地域と連携した活動が、**素**直に頑張る児童の姿につながっています。
- ・「自分には良いところがある」「人の役に立つ人間になりたい」との回答は約 1 0 0 %です。
- ・学校での ICT 端末の活用について、「自分のペースで理解しながら学習を進めている」「楽しみながら学習を進めている」「すぐに調べることができる」とほとんどの児童が肯定的な回答をしています。学習の成果が上がるよう、より効果的な使い方を進めていきます。
- ・どの教科も授業について、「授業が好き」と回答した児童が約 6 0 %以上でした。しかし、授業を「大切だ」「将来役に立つ」と考えている児童は約 9 0 %で、児童にとって苦手な授業内容もありますが、「あきらめずに考える」は、約 1 0 0 %など、肯定的な姿勢で学習に挑んでいます。

本校の児童は、自己肯定感が高く、友人関係にも満足している児童が多いことがわかります。学校では、生活場面や学習場面、児童会活動（西っ子活動）の行事を通して、引き続き人とのかかわる活動に取り組んでいきます。ご家庭でもさまざまな地域活動に参加して、豊かな体験・経験ができるよう、ご協力をお願いします。本校の教育目標「豊かな心をもち、自ら学び、ともに生きる子の育成」の実現のために、「知」「徳」「体」「地域」を四本柱として人とのかかわり合いながら、主体性のある児童の育成をめざしていきます。学校と家庭、地域が連携して地域総がかりの教育を進めたいと思いますので、ご理解とご協力をたまわりますよう、よろしくお願いいたします。